

# MCS税理士法人立川事務所通信

8月号 VOL・156

MCS税理士法人立川事務所

〒190-0023

立川市柴崎町3-11-4 東京ロジテック千代田ビル4階

電話：042-595-7671 FAX：042-528-6949

<http://www.mcs-office.jp> [mail:info@mcs-office.jp](mailto:mail:info@mcs-office.jp)

相続専用HP：<http://www.souzokushien110.com/>



えんまん

遺言相続支援センター

我が人生に悔いなし。常にそう思いながら生きたいものですが、雑誌『プレジデント』が2012年に行ったアンケートによれば、シニア世代が健康面で後悔していることの第1位は「歯の定期検診を受けていればよかった」。失って初めて分かる歯の大切さというわけです。歯の定期検診、さっそく予約してみませんか？

## 【「もしも」のときの頼もしい制度】

取引先の不測の事態は、できることなら避けて通りたいものです。しかし商売を営む上では、あらゆるリスクを想定しておかなければなりません。回収困難となった売掛金が少額であれば、それが事業継続に及ぼす影響は小さいでしょう。しかしもしも多額の売掛金が回収できない状況になったら、事業継続は難しくなり連鎖倒産という最悪の事態に陥るかもしれません。このような「もしも」のときの資金調達として「中小企業倒産防止共済」という制度があります。これは国が全額出資している独立行政法人中小企業基盤整備機構という機関が運営をしています。毎月5千円から20万円の範囲で積み立てを行い、現状では800万円（掛金の40倍で掛け止めも可）まで積み立てることができます。またメリットとして、掛金は税法上、法人の場合は損金、個人の場合は必要経費に算入することができます。そして一番気になる「もしも」のときには、積み立てた掛金総額の10倍の範囲内（最高8000万円）で、回収が困難となった売掛金債権等の額以内の「貸付け」が受けられます。しかも「無担保」「無保証人」「無利子」で借り入れることができます。財務状況や返済能力などによる金融審査での借り入れではないため「もしも」のときに役立つ制度です。何事も用心するに越したことはないですね。



## 【旅行先で「お得」と「楽しみ」が味わえる観光支援策】

旅先納税に着目する自治体が増えています。旅の現地で納税すると、加盟店で使える返礼の電子クーポンが即時に発行される仕組みは、返礼品が届く通常のふるさと納税とは異なり、現地を訪れてこそのお得と楽しみが味わえます。すでに広域連携コンソーシアムが設立され、北海道倶知安町や岡山県瀬戸内市は対象となる宿泊施設や飲食店の情報をサイトに掲載して喜ばれています。停滞していた客足を日本の隅々まで誘致し、地方の応援にもなる期待の観光支援策です。



## 今月の教えてキーワード：【私設取引システム（PTS）】

投資家が証券取引所を介さずに株式などの有価証券を売買できる電子取引システムのこと。1998年12月の証券取引法改正により導入され、英語表記の頭文字を取ってPTSと呼ばれる。2019年8月以降、規制の見直しで信用取引が解禁となり、上場株式取引全体の約10%を占めるようになった。2022年1月、金融庁より公表された「最良執行方針」に関する規制の見直しは、さらに取引拡大の追い風になると予想される。

### 【「不易」と「流行」】

コロナによって大きく変わった状況を表す言葉として思い浮かぶのは「不易流行（ふえきりゅうこう）」です。「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」。江戸前期の俳人、



松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅をしながら会得した概念だといわれ、その示唆に富んだ教えは現在でも多方面で支持されています。「不易」とは変わらないもの。時代を経ても世の中が変化しても、決して変わらないもの、もしくは変えてはいけないもの。「流行」と

は世の中の変化に伴って変わっていくもの、もしくは変えていく必要があるものです。商売でいえば、理念やミッションが「不易」に当たるでしょう。その志をどう実現していくか。時代や社会の変化を見据えた取り組みが「流行」だと思います。コロナ禍で急速に発展したテクノロジーはイノベーションを促し、常識を大きく変えました。出社しなくても仕事ができ、オンラインで顧客とコミュニケーションをとれます。大金を払って大々的に広告宣伝しなくても、無料のデジタルツールを活用して集客することも可能です。しかしこうした「流行」は、時代に合わせて新しいことをやってみるといって単純な話ではありません。芭蕉はさらに「その本は一つなり」、すなわち「両者（不易と流行）の根本は一つ」とも述べています。つまり「流行」は「不易」という原理原則があつてこそ。原理原則に立ち返って物事の本質を問い、その上で新たなことを冷静に判断できる情報・知識・マインドセットを持っていなければ、ただ「流行」に惑わされるだけです。コロナで「流行」は加速しましたが「不易」は変わりません。商売にとっての「不易」は何か。「不易」の何たるかを知っているからこそ逆風でも歩みを止めず、常識に捉われないで変化に対応し、新しい展開を作っていくことができます。おくのほそ道は全工程2400キロ。約150日間の旅でした。旅路で詠んだ俳句の数を思えば、思索の旅だったともいえるでしょう。これから先も何が起こるか分かりません。その時々で最適な「流行」を捉えるために、原理原則を洞察する努力を惜しんではいけないと思うこの頃です。

つら、時の特效薬は  
心から笑うこと

今を生きる！

### 先人の言葉

『アンネの日記』の著者として知られるアンネ・フランクの言葉。この後に「薬を10錠飲むよりも、心から笑ったほうがずっと効果があるはず」と続く。その通りだ。

### 【働くあなたの快眠地図】

累計65000人の睡眠改善を行ってきた角谷リョウの快眠ノウハウが詰まった本です。一日、一週間、季節、年齢のそれぞれに適した「正しい眠り方」とは何なのか。「寝ても疲れがとれない」「朝スッキリ起きられない」人におすすめの一冊です。

